

ワークショップ だよ！ Vol.2

南部圏域地域ブランド創造ワークショップ

いなほ

□ とき 平成23年2月7日(月) 18:30~20:30

□ ところ 那賀町役場相生庁舎 3階会議室

- 南部圏域(阿南市・那賀町・美波町・牟岐町・海陽町)の地域ブランドの創造に向けて、地域の方たち自身で考え作り上げていく“南部圏域地域ブランド創造ワークショップ”を開催しています。
- このお便りは、“南部圏域地域ブランド創造ワークショップ”での話し合いの様子をお届けするものです。

ステップ1

はじめに

調査によると、徳島県は郷土への愛着度は高いが、自慢度が低いという結果でした。

ワークショップ開催の目的や、外から見た県南地域のイメージなどについて県から説明を行いました。
また、緊張をほぐすため、簡単な体操とゲームを行いました。



ステップ2

地域の強み・弱みについて考えよう

2グループに分かれ、和やかな雰囲気の中で、那賀町の地域の強いところ・弱いところについて意見を出し合いました。
参加者からは、那賀町に対する熱い思いが、みなぎっていました。

さあ～、みんなで簡単なゲームをしよう
～(^▽^)/



今回のワークショップには、徳島大学の学生さんも参加してくれました。



● ワークショップ参加者の皆さんが思うこの地域の・・・

強いところ!!

インフラ整備が進んでいないから、逆に豊かな自然が残っているんだネ (ﾟ^)ﾌﾞﾌﾞ

地元民ならではの場所もあるな～
φ(。)メモ

- ・自然との距離が近い
- ・水・星・空気がきれい
- ・四季折々の特色がある(新緑・紅葉・樹氷など)
- ・水がおいしい
- ・のどか、時間がゆったりしている
- ・空き家、耕地が多い

- ・観光スポット
(木沢の風車、黒滝寺、高の瀬峡、槍戸峡、イズリハの滝、りゅうおんさん(竜王山)、大美谷ダムの紺碧の水など)

- ・サル・シカ・タヌキに接することがよい
- ・昆虫が多い(オオムラサキ・カラサアゲハなど)

- ・元気なお年寄りが多い
- ・地域の連帯感がある
- ・都会にない人情味、人間性が温かい
- ・意見を発言できる場が多い、発言する人が多い
- ・伝統を継承している人がいる
- ・外部から来た人に温かい
- ・個性豊か
- ・いつ帰ってきても受け入れてくれる土壌がある
- ・四季美谷温泉の平井滋さん

- ・木頭ゆず、相生番茶(晩茶)、木頭の釜いり茶、鮎、アメゴ、山菜、薬草、天狗久の名工人形など地域資源

弱いところお～

- ・市内からの交通の便が悪い
- ・距離が遠い(徳島市から)
- ・公共交通機関の利用が不便(バス停の距離・料金が安い)
- ・車がない
- ・公衆トイレ・コンビニが少ない
- ・ショッピングセンター、デパートがない
- ・病院の医療サービスへの不安(都市部との格差)
- ・街灯がなく暗い

- ・遊ぶところが少ない
- ・宿泊施設、キャンプ場が少ない
- ・地元の料理を出すところが少ない
- ・飲み屋が少ない

- ・サル・シカ・タヌキが多い
- ・昆虫(カメムシ・クワガタ・カナブンなど)にぶつかる

- ・地元を誇る気持ちに欠ける
- ・若い人が少ない
- ・自然を大事にしない

いいところなのに
もったいないな～
(´へ`)

- ・情報発信力が弱い、宣伝下手
- ・地域の資源が上手く活用されていない

ステップ3

那賀町の地域のイメージを提案しよう

グループで出された地域の強みや弱みをもとに、那賀町の地域のイメージのもととなるキーワードなどを探りだし、各グループごとに、地域のイメージを提案しました。



各グループから提案された那賀町の地域のイメージ

チーム マチュピチュ

- ・昔の田舎が体験できる町
- ・川でのんびりスローライフができる町
- ・伝統に会える町
- ・野生動物が身近に見える町
- ・山菜料理が味わえる町
- ・BBQ大勢でできる町
- ・隠れスポット・アウトドア
- ・田舎なのに活気がある

チーム 老若男女s

- ・高品質
- ・神秘性・秘境・隠れ家的奥深い
- ・不便
- ・謙虚な人柄
- ・お接待のこころ
- ・親切
- ・郷土愛が強い

那賀町の広大な自然を活かしての提案が多いですね
＼(°~°)

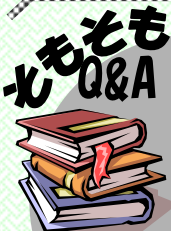
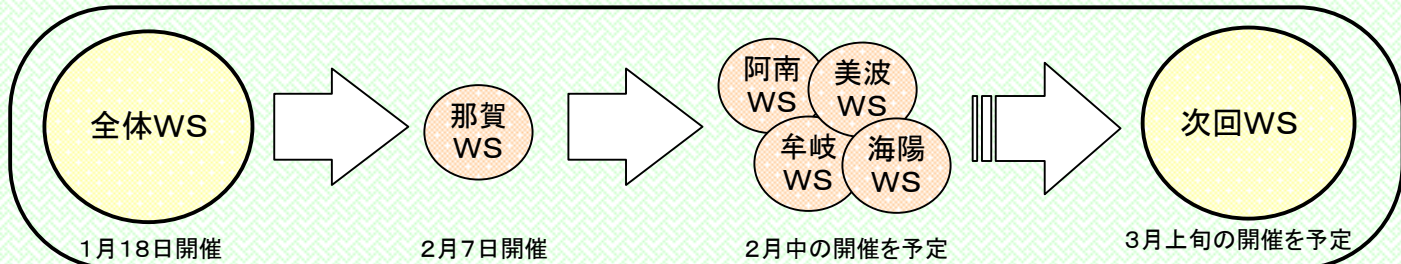
ステップ4

今後の予定

各グループの提案に対して、講評してもらいました。



今後、県南1市3町ごとに、1回ずつワークショップを開催します。各市町での提案内容を材料に、再度全体ワークショップを開催し、県南地域のイメージを固め、地域ブランドの方向性やPR方法などについて検討していきます。



Q: 「地域ブランド」ってなんじゃ?

「地域ブランド」についての明確な定義はありません。和田充夫ほか著「地域ブランドマネジメント」(有斐閣)では、一つの試みとして、『その地域が独自に持つ歴史や文化、自然、産業、生活、人のコミュニティといった地域資産を、体験の「場」を通じて、精神的な価値へと結びつけることで、「買いたい」「訪れたい」「交流したい」「住みたい」を誘発するまち』と定義づけています。

地域ブランドの創造は、一つの特産品を作ることではありません。地域独自の資産を活用して、生産・販売・観光・交流・移住を有機的に結びつけ、地域全体を活性化させるところに、その創造意義があります。

ファンの心を驚掴みにするものは何か、どういう“提供のしかた”が必要なのか、みんなで一緒に考えていきましょう。

お問い合わせ

南部圏域地域ブランド創造ワークショップについてのお問い合わせは、こちらまで。

徳島県南部総合県民局<美波>
企画振興部 県南振興担当
電話:0884-74-7356(担当:浦西)

